

## 1. 日本デジタル教科書学会 2013 年度年次大会のご案内

日程：2013年8月17日（土）～18日（日）

会場：[大阪大学 豊中キャンパス 全学教育推進機構講義棟 B 棟・大講義室](#)

主催：日本デジタル教科書学会 共催：大阪大学全学教育推進機構

後援：大阪府教育委員会（申請中）／大阪市教育委員会

参加申込：<http://js-dt.jp/convention/2013/apply.html>

### 大会プログラム

大会一 日 目	10:00～12:00	研究発表
	13:00～15:00	シンポジウム <a href="http://js-dt.jp/convention/2013/symposium.html">http://js-dt.jp/convention/2013/symposium.html</a> <b>デジタルオンライン時代における教育の未来</b> ー1人1台時代のデジタルネイティブたちに向けてー コーディネーター 上松恵理子（武蔵野学院大学准教授） 登壇者（50音順・敬称略） 大島 純（静岡大学教授） 趙 章恩（東京大学情報学環交流研究員、ITジャーナリスト） 藤川 大祐（千葉大学教授） 桃井 隆良（ルネサンス高等学校校長） 米田 謙三（羽衣学園中学校・高等学校教諭）
	15:15～16:15	総会
	16:30～17:30	セミナー <a href="http://js-dt.jp/convention/2013/workshop.html">http://js-dt.jp/convention/2013/workshop.html</a> <b>はじめての学術論文</b> ー学会誌「デジタル教科書研究」の紹介と論文執筆のコツー コーディネーター 島田 英昭（信州大学） ポスターセッション

大会二 日 目	10:00～12:00	実践発表
	13:00～15:00	ワークショップ <a href="http://js-dt.jp/convention/2013/workshop.html">http://js-dt.jp/convention/2013/workshop.html</a> ■iBooks Author でデジタル教科書をつくってみよう コーディネーター 広瀬 一弥（亀岡市立南つつじヶ丘小学校教諭）定員10名 ■子どものプレゼン力を育もう コーディネーター 山田 秀哉（札幌市立稲穂小学校教諭）定員40名 ■タブレットPCを活用した協働学習を体験しよう コーディネーター 内田 明（佐賀市立若楠小学校教諭）定員20名 ■iPadを活用したアクティブラーニングを体験しよう コーディネーター 岩居 弘樹（大阪大学教授）定員20名 ■人を動かすプレゼンテーションとエレベーターピッチ コーディネーター 杉本 真樹（神戸大学大学院）定員の制限無し

参加費		前売り	当日
	正会員・賛助会員	1,000円	1,500円
	非学会員	4,000円	4,500円
	学生	無料	



## シンポジウム

# デジタルオンライン時代における教育の未来

## — 1人1台時代のデジタルネイティブたちに向けて —

今、教科書・教材がどんどんとデジタル化しつつあります。教室環境が常にデジタルオンラインになると、膨大な情報を簡単に検索することができるようになります。一方で学習者もオンラインとオフラインを使い分けるデジタルネイティブとなってきたため、デジタル端末を簡単に使いこなすことができ、これまでの教育方法が変化を余儀なくされています。このような時代に私たち教育が果たすべき方法と役割について議論していきたいと思います。

今年も素晴らしい登壇者を迎え、有意義な議論を重ねていく中で、新たな提言を出すことができたらと思います。関心のある方は、ぜひシンポジウムにご参加ください。

## ワークショップ

### 「iBooks Author でデジタル教科書をつくってみよう」

コーディネーター／広瀬 一弥（亀岡市立南つつじヶ丘小学校）

iPad用のマルチタッチの教科書をつくることのできるiBooks Author。インタラクティブな図表、3Dオブジェクト、数式などを自由に配置できるので、紙に印刷されたページではありえなかったような方法で、本の中のコンテンツがいきいきと語りはじめるような教科書が簡単につくれます。WSでは、実際にiBooks Authorを使ってインタラクティブコンテンツをつくります。コンテンツをつくりながら、浮かんできたアイデアを共有し、実際の授業でどのように使っていけるか考えます。

《利用端末・ソフト/Macbook Pro , iPad , iBooks Author》

### 「子どものプレゼン力を育もう」

コーディネーター／山田 秀哉（札幌市立稲穂小学校）

みなさんは、「プレゼンテーションソフトの活用は？」と聞かれて、どんな学習を想像するでしょう。プレゼンテーションソフトは、発表や主張といったプレゼンテーションを支援するツールであるばかりでなく、思考のプロセスを可視化するという思考を支援するツールとしても活用できます。そこで、本ワークショップでは、プレゼンテーションの基本的な構成を学び、学習者用の視点に立ったデジタル表現を通して、学習者用デジタル教科の在り方に迫ります。

《利用端末・ソフト/Windows 8 TPC , ピッケのつくるプレゼン》

### 「タブレットPCを活用した協働学習を体験しよう」

コーディネーター／内田 明（佐賀市立若楠小学校）

多くの自治体で、タブレットパソコンの導入が検討されている。フューチャースクールのように1人1台の導入ではなくPCルームの置き換えで全校40台や、指導者用として10台程度など現実に導入される端末は多くない。それら、限られた数の端末を、どのように協働学習で生かしていくか。模擬授業を通して、考えていきたい。

《利用端末・ソフト/Windows 8 TPC , Skymenu Class》

## 「iPadを活用したアクティブラーニングを体験しよう」

コーディネーター／岩居 弘樹（大阪大学）

iPadの出現で、プレゼンテーションスライド作成も動画編集も、デジタルストーリーテリング制作も手軽にできるようになりました。しかし、協同作業の際に写真や動画を送り合ったり、お互いに作成したスライドを交換したりするには、ひと手間もふた手間も必要でした。

ロイロノートはグループ作業に必要なこれらの要望を満たしてくれるアプリです。このワークショップでは、わたしが担当するドイツ語初級クラスや基礎セミナーなどでの活用事例をご紹介します。実際にロイロノートを使いながら、グループでのプレゼンテーション制作、動画編集を体験し、授業での活用方法を一緒に考えたいとおもいます。

《利用端末・ソフト/iPad, ロイロノート》

## 「人を動かすプレゼンテーションとエレベーターピッチ」

コーディネーター／杉本 真樹（神戸大学大学院）

あなたは人の心を捉えられていますか？モバイルや SNS が普及した現在、これまでの型どおりのプレゼンや授業では、人の心をつかむことはできません。情報と情熱をうまく伝えることが、心を捉える信頼につながり、人が動いて初めて新しい価値が生まれるのです。医療現場と米国シリコンバレーでの実績から得た、より実践的な新しいプレゼンテーション術をご紹介します。また、スライドや PC を使って行うプレゼンに頼らずに、いつでもすぐに想いが伝えられるような **Elavator pitch** や **Show & tell** など、数々のコミュニケーションテクニックを交え、これらを自然に身につける秘訣として、"人を動かすプレゼンテーション思考術"を解説します。

## 2. ロゴ紹介

あと数週間もすれば新学期が始まろうとしている3月に本学会のロゴが誕生した。

本学会のアイコンとなる大切なロゴ制作の話が来たのは今年の秋、それから試行錯誤を重ねての完成である。

可愛い顔をした3人の子供達が特徴的なロゴではあるが、背負っているものはかなり大きい。

なんせ『日本デジタル教科書学会』を背負っている訳だから。

子供達の両サイドの柱は本学会の3つの柱である中立性（赤）、研究者と実践者連携（オレンジ）、幅広い連携（青）を意味している。

今後、この子供達が本学会と共に大空に羽ばたいてくれる事を親として切に願う。

ちなみに、この3人の子供達にも名前を付けてあげないと可愛そうなので、ぜひこの子供達に素敵な名前を付けていただけないだろうか？名付け親募集中。



### 3. 研究会のご報告

#### ■東京研究会報告「デジタルオンラインがもたらす近未来の教育」

2013年6月10日(月)18時より、東京にて本学会主催研究会「デジタルオンラインがもたらす近未来の教育」が開催された。青山学院大学青山キャンパスにて、重田勝介氏(北海道大学)と庄司昌彦氏(国際大学 GLOCOM)の2人に講演をして頂いた後、上松恵理子(本学会副会長・武蔵野学院大学)と伊藤一成(本学会理事・青山学院大学)を交え、今後のデジタルオンラインがもたらす近未来の教育について、トーク&ディスカッションをした。



具体的にはまず、庄司昌彦氏から「オープンデータの現状と展望、教育等にもたらす社会的影響」というテーマで公共機関等のデータを社会的に広く活用する「オープンデータ」化の現状と展望、そしてそれがどう教育に結びつくのかについて講演頂いた。次に重田勝介氏からは、「教育のオープン化はデジタル教科書

に何をもたらすか?」というテーマで、「オープンエデュケーションの世界動向とオープン教材(Open Educational Resources: OER)の活用」について講演頂いた。

会場はほぼ満席となった。会場からは「オープン」がキーワードとなる研究会を開催することは先進的な視点であったという意見を数多く頂いた。

(武蔵野学院大学 上松恵理子)



#### ■札幌研究会報告「Diginnovation Festa in 札幌」

2013年6月29日(土)、ライフオート札幌にて、本学会と一般社団法人デジタル表現研究会(D-Project)の共催による研究会「Diginnovation Festa in 札幌」を、北海道メディア教育研究会に後援いただき催した。

まず、本会副会長である上松恵理子(本学会副会長・武蔵野学院大学)が「デジタル教科書がもたらすこれからの教育」と題し



て講演を行い、北欧の学校現場を視察して得た知見の報告を交えて、学校教育の未来について興味深い報告と提言がなされた。その後、朝倉一民氏(札幌市立屯田北小学校)から、教師側・子供側の双方の視点から、勤務校で重ねられた実践を分かりやすく紹介いただき、好評を博した。

午後はまず、本学会理事の3人によるワークショップ「デジタル教科書・教材活用について考える(松下慶太



実践女子大学)」「ロイロノート (iPad) でデジタル表現 (岩居弘樹 大阪大学)」「ピッケのつくるプレゼン (タブレット PC) でデジタル表現 (山田秀哉 札幌市立稲穂小学校)」へ参加者は分かれて充実した議論・実践が行われ、どのグループでも参加者から好評であった。この後、ワークショップを行った3理事と上松が、パネルディスカッションを行った。まず、岩居、山田から実践報告があり、これらと午前の講演を踏まえて松下が議論のポイントをまとめ、それを元に4人による充実したディスカッションが行われた。

8社に出展いただいた企業ブースは活況し、大いに盛り上がった。また、懇親会にも半数以上の参加者が集まり、実りある交流の時となった。

(同志社女子中学高等学校 久富望)



## ■山形研究会報告「教育における情報化に関する研究会」

2013年6月29日(土)13時より、山形駅前「ゆうキャンパス・ステーション」にて、本学会協力の「教育における情報化に関する研究会」が開催された。

まず、眞壁豊(本学会CIO、東北文教大学)が、教育の情報化に関する現状の流れと今後の見通しについて簡単な解説をした後、各実践者による活用事例発表が行われた。



鈴木伸治氏(天童市立長岡小学校)からは「開かれた学校づくりを学校HPから」という演題で、教員のみならず児童達を巻き込んだ学校ウェブサイト構築にかかる学校経営戦略の重要性について講演いただいた。次に片山敏郎(本学会会長、新潟大学教育学部附属新潟小学校)より「21世紀を切り開く子どもを育てる～デジタル端末を活用した授業づくりの可能性」という演題で、1人1台のiPad環境による、子ども達の主体性を活かした総合的な学習の時間の事例を紹介頂いた。最後に石山志保氏(寒河江市立高松

鈴木伸治氏(天童市立長岡小学校)からは「開かれた学校づくり



小学校)が、「フューチャースクール推進事業参加校となってわかったこと」という演題で、実証校の視点からみた事業内容や協働教育に向けた取り組みを紹介頂いた。

当日は、想定を越える来場者に恵まれた。今後も山形という地で定期的に勉強会あるいは研究会を開催できる期待が持てる、非常に活気に溢れた研究会となった。

(東北文教大学 眞壁豊)

